

2020年9月9日

各競技団体及び競技者の皆様

一般財団法人 青森陸上競技協会
審判部長 甲田 義人

今後の大会及び競技会での使用できる「競技用靴」について

(お知らせ)

今後の大会・競技会（2020年度の青森陸上競技協会主催・共催）では「2020年度日本陸上競技連盟競技規則」を適用しますが、WA（World Athletics ワールドアスレティックス 世界陸連）から2020年7月28日に出され即日発効した新しいシューズのルール、及び日本陸連から2020年8月15日に出された「WA規則第143条（TR=テクニカルルール第5条：シューズ）のルール再改訂について（通知）」に従い、12月1日より改訂されたルールを適用します。

したがって、800m以上のトラック種目（競歩種目を除く）では、使用できる靴底の厚さの上限は25mmですので、靴底の厚さの上限が40mmのシューズ（2020年度当初の競技規則で使用可能であったいわゆる「厚底シューズ」）は、使用することができません。

ただし、トラックで実施される競歩だけはロードのルールを適用します。（トラック種目で競歩だけは40mmの厚底シューズの使用が可能です。）

日本陸上競技連盟より示されている11月30日までの大会・競技会につきましては、移行期間となっていますので、厚底シューズでの参加は可能です。ただし、使用する際には、計測、確認の作業があり厚底シューズの際には、リザルトに「規格外（WPS）」の記載が義務付けられています。

ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

なお、他の種目の靴底の厚さについても、別表の通り、新しいシューズのルールが適用されます。

(参考)

2020年8月15日付け日本陸上競技連盟「WA規則第143条（TR5=テクニカルルール第5条：シューズ）のルール再改訂について（通知）」

※ 下記メールアドレス内に、各メーカーシューズの承認、非承認の表が掲載してあります。

日本陸連のホームページへ

<http://www.jaaf.or.jp/news/article/13959/>

(8月21日付けで日本陸連において表への追記があります。)

別表

【靴底の厚さ】

2020年8月21日

種目	ソールの最大の厚さ (TR5.5、注意(i),(ii)、 (iii)及び、TR5.5の図 (a)並びに(b) TR5.13.3に基づく)	補足
フィールド種目 (三段跳除く)	20mm	すべての投てき種目、高さの跳躍及び、三段跳を除く長さの跳躍種目に適用。全てのフィールド種目において、競技者の前の部分の中心点のソールの厚さは、競技者のかかとの中心点のソール厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	競技者の前の部分の中心点のソールの厚さは、競技者のかかとの中心点のソールの厚さを超えてはならない。
800m未満のトラック種目 (含むハードル)	20mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。
800m以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が適用される。競歩種目ではロード種目と同様とする。
クロスカントリー	25mm	
ロード種目 (含む競歩)	40mm	
TR57の種目 (マウンテン・トレイル)	規定なし。	

TR5.13 注意

(i) 規則143条(TR5)13(a)の「1つの剛性プレートまたはブレード」は、複数のパーツで構成される場合があるが、それらのパーツは、並行ではなく(例:個々のパーツは互いに上に積み重ねない)、1つの平面に連続して配置しなければならない。※現行のルールブックに掲載の内容と変更なし。

(ii) フィールド種目のシューズの厚さについては、現在、これまでの規定に合致したシューズを使用している競技者を救済するため12月1日以降からの適用とする。リザルトへの「規定外」の注記は不要とである。(WAルールに記載の内容を追記)